

1 審議会名	平成30年度(第6期)第1回上田市上下水道審議会
2 日時	平成30年7月23日 午後3時から午後5時まで
3 会場	市役所本庁舎 6階 大会議室
4 出席者	遠藤委員、大口委員、梶村委員、金井委員、甲田委員、小林委員、高寺委員、鷹野委員、高橋委員、田中委員、中村委員、西澤委員、布施委員、堀内委員、本間委員、松田委員、松本委員、山寺委員、山本委員
5 市側出席者	土屋上田市長、竹花上下水道局長、城下経営管理課長、滝澤サービス課長、小井土上水道課長、三浦下水道課長、越浄水管理センター所長、藤極丸子・武石上下水道課長 (以下経営管理課) 黒岩課長補佐兼経理担当係長、増田補佐兼経理担当係長、青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年7月30日

協議事項等

1 開会

2 委嘱状交付

- ・ 上田市長から委嘱状を交付

3 市長挨拶

- ・ 今月発生した西日本豪雨災害では、各地に甚大な被害をもたらし、こうした災害が発生する度に、上下水道事業は一日たりとも欠くことのできない重要なライフラインであることを痛感する。
- ・ 昨今の給水人口の減少、節水型社会への移行などにより、水需要は減少傾向にある一方、老朽化した施設の更新、修繕のための投資額の増加が見込まれている中で、大規模災害に備え、施設の耐震化を進める必要があることから、経営を取り巻く環境は厳しく、一層の企業努力が求められている。
- ・ こうした状況に対応するため、上下水道局では中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を平成29年3月に策定した。
- ・ 今年度は水道事業ビジョン、下水道事業ビジョンを皆様に審議いただき、策定いただく予定となっている。
- ・ これらのビジョンは、中長期的な施設の効率的運用と災害に強い強靱な体制の構築を主な内容とするものである。
- ・ これらのビジョンを基に、「経営戦略」を見直しながら、中長期的に収支バランスのとれた事業運営を推進していきたいと考える。
- ・ 市民生活を支えるライフラインである上下水道事業が安定して継続できるよう皆様のご理解とご協力をいただきたい。

4 審議会委員自己紹介

5 上下水道局出席者自己紹介

6 正副会長選出

- ・ 事務局から、会長・副会長の選任方法について提起
- ・ 委員から審議会委員の経験のある方をお願いすることが運営上望ましいとの声があがり、前回副会長である田中利喜夫委員、2期目である高橋仁委員がそれぞれ推薦され、了承される。

7 正副会長あいさつ

8 議事

(1) 上下水道局審議会について

○事務局より資料1、資料2に基づき上田市上下水道審議会条例及び今期（平成30年度）の審議会開催予定について説明

・委員からの意見・質問なし

(2) 上下水道局の組織について

○事務局より資料3に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(会 長) 北庁舎で業務を行っている職員は何名か。

(事務局) 現在3名で業務にあたっている。

(3) 上水道事業の概要について

○事務局より資料4及びパンフレット「うえだの水 みんなの水」に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委 員) 水処理方式で「緩速ろ過」、「急速ろ過」などあるがどういった方式なのか。

(事務局) パンフレット「うえだの水みんなの水」に基づき説明

緩速ろ過：砂層や砂利層を用いたろ過池を、一日あたり3mから5m程度のゆっくりとした速度で水をろ過する方法。最大の特徴は、ろ過池の砂粒や砂層表面に生息した生物が形成した生物膜（珪藻類）によって浄化されているところにある。

急速ろ過：原水中の濁質を薬品によって凝集させた後、ろ層に1日120m程度という速い速度で通し、主としてろ材への付着とろ層のふるい分け作用により濁りを除去する方法。

(会 長) 説明資料の中で千曲荘病院などで専用水道とあるが、自家で汲み上げて使用している水道ということか。

(事務局) そのとおり。専用水道の位置づけになっており、個人で井戸を掘って処理をして利用している。

(委 員) 下水道の場合はどうなっているのか。

(事務局) 下水を流すためにメーターをつけ、検針をして下水道料金を徴収している。

(委 員) ①パンフレット「うえだの水みんなの水」の表紙で使われている写真の場所を教えてください。

②個人が井戸を掘って使用する場合、保健所が水質検査などを行うのか、市の上下水道局が仲立ちするなど行っているのか

(事務局) ①「つちや奥水源」、「水道資料館」（浄水管理センター内）、「石舟浄水場」、「菅平 唐沢の滝」、「内村ダム」、「水道資料館入口 瓶によるろ過」。

②個人の井戸の水質検査は、所有者個人において保健所等で行ってもらうことになる。

(委 員) パンフレット「うえだの水みんなの水」の裏面の写真の場所を教えてください。

(事務局) 「武石 巢栗溪谷」になります。

(会 長) 説明の中で課題がいくつか挙げられていたが、重点目標やビジョンの中で表などで課題を示してもらえるとわかりやすいが、重点目標やビジョンには反映しているのか。

(事務局) 先ほどの説明は事業ごとに課題を挙げたが、単年度ではできないので何年かかけていく事業となる。

重点目標は単年度の部分的に取り上げたものとなっている。

(4) 下水道事業の概要について

○事務局より資料5及びパンフレット「上田市の下水道」に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 説明資料の中で農集から農集への統合計画が3地区、統合対象外7地区とあるが、この二つについて他のものは公共下水道に計画または実施中になっているがこれについて説明いただきたい。

(事務局) 農集排同士の統合については、真田地域ですと本原を本原南、豊殿南部を林之郷、武石地域では余里小沢根を武石に統合したい。対象外7か所については処理場等を更新していく費用(設備、建物等)と公共下水道へ接続する管渠の更新費用を比較した場合、処理場の更新費用より管渠の接続費用が高くなってしまう場合には、農集排同士の統合であったり、当面の計画にはなるが統合対象外として独立して処理場の維持管理をしていくこととなる。これが最終形ということではなく将来的には社会情勢の変化によってはまだまだ統合を進めなければいけない部分も出てくることもある。

現在想定される状況ということでお示ししている。

(会長) 現時点では経済的な面で農集排の統合と公共下水道への統合を進めているという理解で良いか。

(事務局) そのとおりです。

(5) 上下水道局重点目標について

○事務局より資料6に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) ①パンフレット「うえだの水みんなの水」の中で、上田の水をもっとおいしくするために更に努力していきますと表記されているが、重点目標内のきれいで安全な水を供給する上水道事業の推進では意味合いが違うのではないのか。

②水源地の確保についてはどのように考えているのか。

(事務局) ①パンフレットに記載されている「上田の水をもっとおいしくするために更に努力していきます」については「つちや湧水水源」という真田地域の上流域に湧き出している水源があり、これは塩素消毒のみで飲み水に変えることができる天然の湧き出した水を上田地域へ自然流下で下してきたいと考えている。また、計画として今後の課題になっているが武石地域の上流域にも同じように湧き出しているの、できればこれらを活用して下流利用したい。

現在、上田の水は河川からの表流水を緩速ろ過、急速ろ過といった浄水方法を使ってきれいな安心な水を供給しているが、将来的には湧水を活用する形に変えていきたいという大前提の目標があり、パンフレットはそういう意味でこういった書き方をさせていただいている。

②確かに地域の地下水を汲み上げると周りに影響を与えるということが多々あるが、上田の場合は湧水水源、地下水、井戸水で山から湧き出ているものをそのまま活用しているものを湧水と使い分けているが、山の上流域(人家等に関係のない)に湧き出しているもの、あるいは井戸を掘って下流域に下しているということで、街中で掘ってそのまま飲み水に変えるということは考えてはいない。

(委員) ②について) 山の中で水源となるべき土地が私有地で、またそこを買われてしまった場合どうするのか。そういった場合の保護や規制を考えているのか。また、ミネラルウォーターの企業などがそこに工場を作った場合や外国人がそこを買われた場合はどうされるのか。

(①について) 急速ろ過と緩速ろ過では緩速ろ過の水の方が圧倒的においしい。これを湧水に変える

というのは本当に可能なのか。

①については後日回答いただき、本日は、水源地の確保についてお答えいただきたい。

(事務局) 現在、我々が湧水水源として確保してこれから事業を投資していく箇所は幸い所有が上田市東御市真田共有財産組合の所有（上田地域 97%、東御市 3%）となっている。このため当面民間などに荒らされることは想定していない。

また、湧水水源にすべてが変わるのかということ決してそのようなことはない。今のところ計画で考えているのは染屋浄水場の区域に最終的に下してくるが、最大で約 2 万 8 千 t/日量あるうち 4 千 6 百 t 程度、1/4 程度の送水を今のところ考えている。また将来、もう一か所上流域の開発を予定しているが、その水が増えてくれば段階的に考えている。決して全てを湧水に変えるということはない。

(委員) 説明資料の中で目標の有収率が 86%とあるが、これは全国平均等と比べて高いのか低いのか。

(事務局) 現在、有収率は 83.6%となっているが、全国平均に比べると低い。全国平均で約 87%、長野県平均約 84.7%よりも低くなってしまっている。

(委員) これはほとんどが漏水ということか。

(事務局) 原則漏水ということになる。

(委員) 単純に考えて 83%と聞くと非常に低いなと感じるが、これを 86%まで上げるということか。

(事務局) そのとおり。

(委員) 下水道の普及率とそれに対する利用率について説明願いたい。

(事務局) 下水道の水洗化率（下水道が整備された区域内で繋がれている率）は平成 30 年 3 月 31 日現在で 92.4%（公共下水道、農業集落排水合わせた水洗化率）となっている。

(委員) それは高いのか低いのか。

(事務局) 長野県 19 市のうち丁度真ん中（10 番目）となっている。

(委員) 市の方から（接続を）催促というのは難しいと思うが、結局やらないと一軒のために周りの環境が良くならないのでそういったことはなんとかならないか。

(事務局) 局では専門の嘱託職員を置いて普及促進活動を行っているが、どうしても高齢者世帯などそれぞれのお宅の事情があり無理強いもできない状況であり、徐々にではあるが普及促進に努めている。

(委員) 重点目標の 5 番目にある「災害に強い体制の構築」の中で集中豪雨に対する対策を打ってもらいたい。（要望）

(会長) できたらお示しいただくようお願いしたい。

(6) 水道事業・下水道事業ビジョンの考え方について

○事務局より資料 7、資料 8 に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 下水道の処理を行う際にメタンガスが発生し、その処理として焼却していると思うがその熱を発電や温水に変えるといったビジョンは取り入れられるのか。

(事務局) 上田終末処理場において現在もメタンガスの再利用を実施している。下水道事業ビジョンの中でもエネルギーの再利用という観点を入れてビジョンを作りこんでいきたい。

・全体を通しての意見・質問なし

9 その他

(局長) これから上水道事業・下水道事業の礎になるビジョンを今年しっかりと作成していきたいと考えている。二年間にわたり大変お世話になるがよろしくお願ひしたい。

10 閉会

以上